

地域おこし協力隊交流フェスタ2023 (9月30日)



市内で活躍する11人の地域おこし協力隊が篠山チルドレンズミュージアムに集まり、日頃の活動を紹介する初の交流フェスタが行われました。子どもたちは、「チアダンス」「入浴剤作り」「シカ笛をつくろう!」(写真)「よもぎからもぐさを作ろう」など、協力隊の活動に関わるさまざまなワークショップを楽しみました。

私の地元応援募金の受領式(9月29日)



明治安田生命保険相互会社から「私の地元応援募金」を寄付いただくのは、今回で5回目となります。毎年用途を変えて寄付いただいております。市では主に子育て支援や伝統文化の保全などに役立てています。市長からは、見守り隊事業でもお世話になっていることに対するお礼もお伝えしました。

サケフェスティバル(9月30日)

大手前南駐車場で、初の「丹波篠山 サケフェスティバル」が開催されました。1杯60mlほどで計8種類の地酒の試飲ができ、参加者はチケットを買ってさまざまな種類の地酒を楽しみました。当日より300円安く地酒を試飲することができる事前申し込みには、50件ほどの申し込みがあったようです。「地元の食材を使っており、お酒に合う食べ物」という条件をクリアしたおつまみを売る出店も並び、さらには福袋や抽選会もあり、会場はにぎわいを見せました。



探す! 体験する! 走る! 山賊ワイルドラン(10月1日)



西紀北から篠山口駅まで約20kmを走る「山賊ワイルドラン」が開催されました。39人9チームが参加し、前日の「炎の宴(前夜祭)」で参加者同士の交流を深めた翌日にスタート。コースの中では、西紀北小学校の児童らが作成した地図を片手に地域の宝探しや、八百材舎BASEでの間伐体験などのミッションが用意されており、丹波篠山ならではのファンラン(楽しむことを目的としたランニング)となりました。

総合得点で1位となった「TEAMもきち」代表の加藤翔さんは「走るだけでなく、地元を感じてここでしか感じられない体験ができた」と話されました。

世界平和アピール七人委員会講演会(9月9日)

「イラク戦争から20年 日本と国際社会はどう変わったか」をテーマに、イラク研究の第一人者であり、七人委員会委員の酒井啓子さんが講演されました。イラク戦争が生んだ国際政治の常識がその後の世界の不安定化と分裂へとつながり、ロシアのウクライナ侵攻という形で再現されたというお話をお聞きし、あらためて世界平和について考えるよい機会となりました。



密集地火災訓練の実施(8月27日)



消防本部では、城東小学校周辺において、密集地火災訓練を実施しました。市内で発生した木造建築物密集地での火災を教訓として、住民、警察および消防団との連携の向上を図り、一丸となって火災の被害から市民の皆さんを守ることを目的としています。

認定農業者に(株)グリーンファーム(10月6日)



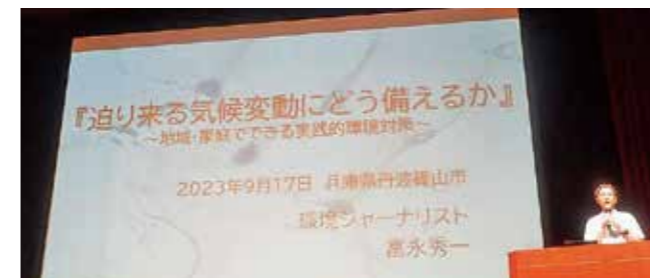
野中地区でいちご園「ささやまBERRY1」を運営する[(株)グリーンファーム]が、新たに認定農業者に認定されました。作付面積は約61アールで、「草姫」「紅ほっぺ」「恋みのり」「かおり野」の4品種を栽培する同園。雪岡尚弘園長は、「市の農業発展のためにも、がんばりたい」と笑顔で話されました。

JICA海外協力隊(10月4日)



市内在住の星宗果歩さんがJICA(国際協力機構)海外協力隊としてタイ国に赴任されます。配属先では、虐待などの被害に遭った女性に美容技術を提供し、社会復帰を支援されます。任期は令和7年10月まで。「美容技術の楽しさを伝えたい」と笑顔で話されました。

環境セミナー開催(9月17日)



環境ジャーナリストとして活躍されている富永秀一さんが講師となり、エコドライブや生ごみを土に混ぜて消す方法など、日常生活の中ですぐに取り組める気候変動対策行動について、実体験を交えながら話されました。環境委員をはじめとした参加者の皆さんは熱心に聞き入り、気候変動対策行動について共に考えました。

市民文化祭(作品展示の部)(9月14日~16日)



第25回市民文化祭(作品展示の部)が開催されました。市内各文化協会に加盟する団体が書道・手芸・陶芸・生け花などの分野で活動の成果を披露しました。11月23日(木・祝)には、田園交響ホールで民謡・舞踊などの合同芸能発表会があります。

丹波篠山市男女共同参画センター「フィフティ」 開設1周年記念講演会

「ぐちを言うより変えていこう」

講師 丹波篠山市男女共同参画アドバイザー

なか がわ とも こ
中川 智子さん(前宝塚市長)

とき・ところ 11月5日(日) 13:30～15:30
丹波篠山市民センター

対象 市内在住・在勤・在学の方

その他 一時保育あり



問い合わせ 男女共同参画センター ☎552-1511



サッカー教室の参加者募集については21ページに記載。

県茶品評会で諏訪園が 3年連続で大臣賞(10月8日)

第63回兵庫県茶品評会(荒茶部門)において、株式会社諏訪園が最高の農林水産大臣賞、同社の酒井一行代表取締役が次点の近畿農政局長賞を受賞されました。

品評会には、市内からの14点を含む47点が出品されました。審査は200点満点で採点。審査員が茶葉に熱湯を注いだ後、網で茶葉をすくい上げ、顔を近づけて香りを確認したほか、茶の味や色を丁寧にチェックしました。審査の結果、満点で3年連続での受賞となりました。

酒井代表取締役は、「今年は、気候的にもあまりよくありませんでしたが、摘み取る時期を少し遅らせことで、味がのって、おいしいお茶ができました。肥料の配分と種類を研究して取り組んできた土壌改良の成果が出てきたと思います」とにっこり。「丹波篠山のお茶は、全国のどのお茶にも負けない味わいがあると思います。そんなお茶を飲んでいただける方が、1人でも増えるように、今後もがんばっていきたい」と抱負を語られました。



丹波篠山黒枝豆販売解禁セレモニー(10月7日)



市では、9月中旬頃から早生品種の枝豆が出回ることから、消費者の混乱を防ぐために、市の在来品種「丹波黒」の販売解禁日を設定しています。今年は例年より2日遅い10月7日が解禁日となりました。今年は梅雨明けから開花期の初めまで高温が続いたことや、お盆まで雨が少なかったことで地域によってさやつきや生育のスピードにばらつきがありました。また、朝晩の冷え込みが遅れ、さやのふくらみが遅れたとみられています。

セレモニーが行われたのは篠山東雲高等学校管理の農地。生徒たちによる自分たちで育てた黒枝豆の販売実習が一本杉販売所で行われる予定です。



市外からの担ぎ手も参加 はた祭り(10月7日・8日)

4年ぶりに畑地区で「はた祭り」が開催されました。400年以上の歴史を持ち篠山三大祭のひとつとしても知られています。7日の宵宮は明かりを灯した山車と竹灯籠により、幻想的な風景が広がりました。8日の本宮では、金みこしや山車、騎馬童男、御神酒持乙女童女などが若宮神社と佐佐婆神社間を往復し、その後市内でも珍しい流鍋馬が行われました。

また、今回の祭りでは、地区外から引き手や担ぎ手を募集し、神戸大学や一般の方が2日間で延べ26人参加。「ヨーイ、サンジャ」などの掛け声が響き活気あふれる2日間となりました。



おいれさんばんそう 追入三番叟(10月8日)



大山の追入神社で、三番叟が奉納されました。天下泰平、五穀豊穰など、多くの願いが込められた三番叟。ともに大山小学校6年生の青野楓さん、呉田穂乃香さんによって、美しい舞が披露されました。

杉秋祭礼に外国人が参加(10月8日)



杉自治会では自治会在住の外国人たちとのコミュニケーション向上のために、秋祭礼の参加者を募集し、当日は6人の参加がありました。6人は子どもみこしを子どもたちと一緒に担いで宮入りをするなど、地域の方々との交流を楽しんでいました。